

2-3

スタンド・アップ・トゥ・ユニット

ゆとり・にっこり・ユニットり

従来型でのユニット

グルーピング

特別養護老人ホーム サンシャインホーム

| | |
|--------------------------|--|
| 介護職員：伊藤ユニットリーダー 武蔵村山市 | 介護職員：長田ユニットリーダー 介護職員：岩本ユニットリーダー |
| TEL：042-531-3741 | E-mail： info@sunshinehome.or.jp |
| FAX：042-531-2321 | URL： http://www.sunshinehome.or.jp/ |

| | |
|----------------------------|---|
| 今回の発表の施設 またはサービスの 概要 | 平成8年4月より特養(100床)、ショートステイ(8床)、認知症デイサービスの3部門でスタート。今日では、居宅介護支援、訪問介護、認知症グループホーム(9床)に加えてユニット型個室(11床)等を展開中。 |
|----------------------------|---|

| | |
|---|--|
| <p>〈取り組んだ課題〉</p> <ul style="list-style-type: none">平成14年10月から始めた従来までのユニットケアでは、ハード面において単純に区切ったことと一部改修した程度であった。4つのユニットとしていたものの、入所者の生活空間の振り分けは、大きく2フロア一単位であったためにユニット毎の生活に特色を出すことが出来なかった。 <p>〈具体的な取り組み〉</p> <ul style="list-style-type: none">生活リズムや性格なども考慮し、特にADL別にユニットを4つに再編成した。ユニットの特性は、マイペース・(レクを含めた)共生・全介助・認知症重度とした。個室特養を含めユニット毎に、5名のユニットリーダー職員を配置した。入所者のニーズに合ったケアを行う為に、ユニット毎に排泄係・入浴係・食事係を配置した。入所者と寄り添う時間を多く作ることができるよう、業務の見直しや改善に加えて人員配置の見直しを図った。地域のコンビニエンスの強力を得ながら、入所者との外出・買い物へと繋げた。あるユニットでは食堂、リビングを分けて畳を敷くことでくつろぎのスペースを作った。また、ベランダのスペースで家庭菜園に取り組んだ。 | <p>〈活動の成果と評価〉</p> <ul style="list-style-type: none">入所者の笑顔が増え、ユニット職員との信頼関係が今までより強くなった。一般職員に係を分担することで、責任感を持って業務に取り組むようになった。全介助の方にも、ゆっくりとケアを提供することが出来るようになった。仲の良い入所者同士でお茶を飲んだり、談笑されたりする時間が増えた。身体的に自立しているユニットでは、公共機関である電車でお祭りに参加するなど社会性の広がりも見られた。 <p>〈今後の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none">4ユニットをさらに2つずつに分け8コアとしたが、現状はコアとしての機能はしていない。今後、さらなる小集団のグルーピングを行い、よりきめ細かいケアを提供していく。全介助のユニットはオムツ交換中心、身体的に自立しているユニットではトイレ誘導が中心になり職員の介護技術が対極的になっているため、定期的な技術的研修を行いフォローアップしていく。身体的に自立しているユニットでは行動力が増え、職員の目の届かないところでのヒヤリハット事例が増えつつあり活動に対するアプローチを検討する必要がある。 |
|---|--|

【メモ欄】